令和5年度　全国学力･学習状況調査の結果について

御嵩町(組合)教育委員会

1　調査の概要

(1)　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)　対象学校･児童生徒

御嵩町内全公立小中学校　【小学校３校（６年生）　中学校３校（３年生)】

(3)　調査内容

教科に関する調査【国語、算数／数学、英語（中のみ)、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査】

(4)　調査日　令和５年４月１８日（火）

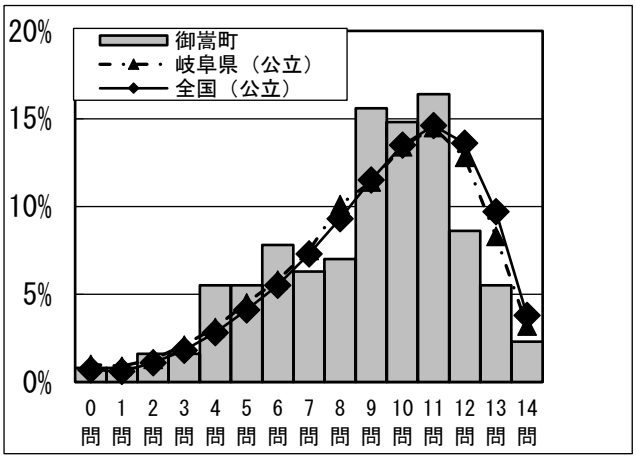
2　御嵩町における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

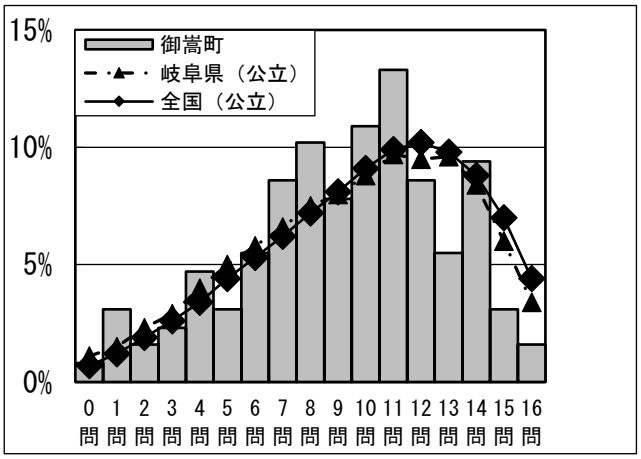
○小学校は国語、算数は全国をやや下回った。(2～5%低い)

○中学校は国語、数学は全国並みで合った。(差が2%以内) 英語は全国をやや下回った。(2～5%低い)

小学校（国語）



小学校（算数）



(2) 各教科の調査結果の概要から見た成果(○)と課題(△)

【小学校国語】

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。

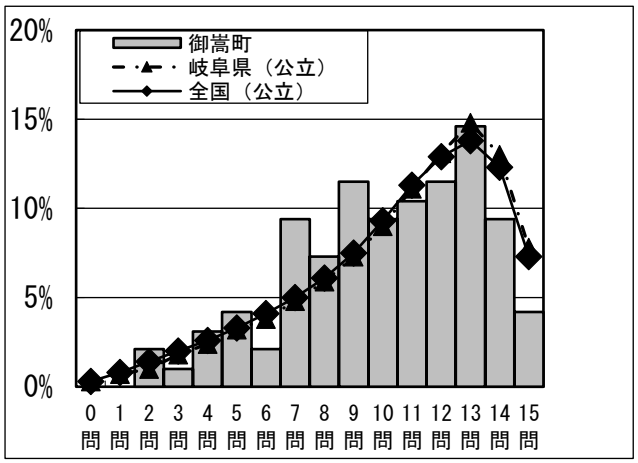
○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる

△図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
△必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える。
△目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。

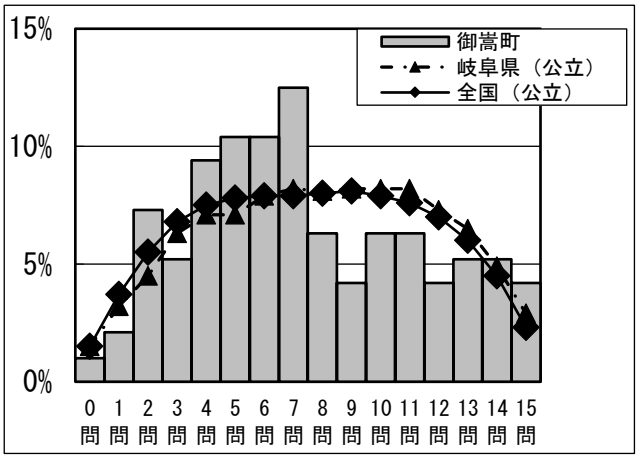
【小学校算数】

○（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる。
△正三角形の意味や性質について理解している。
△加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる。
△百分率で表された割合について理解している。

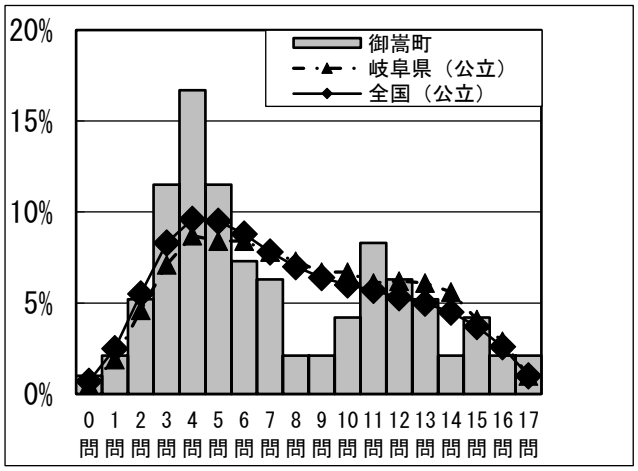
中学校（国語）



中学校（数学）



中学校（英語）



【中学校国語】

○目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。
○聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。
△意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。
△文脈に即して漢字を正しく書くことができる。

【中学校数学】

〇累積度数の意味を理解している。
〇四分位範囲の意味を理解している。
〇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
〇ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。
△目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
△与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。

【中学校英語】

〇社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる。
〇情報を正確に聞き取ることができる。
△情報を正確に読み取ることができる。
△「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができる。

（3）課題解決への手立て

小中どちらも全国を下回っているという結果を踏まえて、基礎学力の定着が必要であることは明らかである。単に知識を獲得するための学習から、習得した知識を活用しながら学ぶことで、より効果的に確かな学力を身につけていける。課題として挙げられている項目の多くは、「聞く、考える、まとめる、伝える」という一連の流れを必要とする学力である。日頃の授業の中で「主体的で対話的な深い学び」を意識した学習過程を継続的に行うことが大切である。その際には ICT を活用したり、対話活動をはじめとした協働学習を取り入れたりすることで効果的な学習を行うことができる。当然、児童生徒の学習スキルには差があるため、それを補うための個別最適な学びを展開することも学力を底上げすることにつながる。

対話的な学びの場が日々の授業であるとするならば、そこで学んだことを習得する場として家庭学習も大切にしたい。全員が同じドリルや問題集に取り組むという従来型の学習方法から、個の能力に合わせた習熟方法を取捨選択する家庭学習を行っていきたい。そのうえで一人１台タブレットは大いに活用できる。ICT を活用して、個々のニーズに合った習熟問題に取り組むことで、家庭でも個別最適な学びを実現できる。

このように学校と家庭が連携し、学力向上に向けての取り組みを行うことが確かな学力の育成につながる。

３　全国学力･学習状況調査の活用について

本調査の結果は町内６校の教頭と教育委員会で組織する学力向上推進委員会で共有し、各学校ごとの実態を基に授業改善に取り組む。

また、御嵩町には可児郡教科研究会という教員が授業力向上のために研鑽を積むことを目的とした研究会がある。ここで行われる研究授業においても、全国学力学習状況調査の結果を基に、児童生徒につけたい力を明確にした授業研究を行っていけるようにする。